船橋の塩業を調べる

塩業の沿革

江戸時代には全国各地で塩造りが行われましたが、関東で最大の製塩地は下総国の行徳浜でした。徳川家康が関東に領地を移された天正 18 年（1590）以降、幕府の保護政策によって大きく発達したのです。

江戸時代の後期には、行徳浜の中でも塩業地の比重が東方に移るようになり、現船橋市域の西海神村で盛んになりました。その後、明治時代になると、行徳塩業は衰退の方向をたどりますが、船橋市域では、明治３年に九日市塩田、同 13 年に三田浜塩田、同 17 年に五日市塩田、同 34 年頃には松遠塩田が開かれました。

大正 6 年の大津波で内湾の塩田は壊滅的な被害を受けました。これにより行徳では塩田が半減しましたが、船橋の塩田は間もなく復旧したことで、東京湾塩業の中心地は船橋に移りました。しかし、昭和４年（1929）の第二次製塩地整理により行徳から船橋の塩田は廃止され、船橋の塩業は終焉を迎えたのです。

船橋の塩業を調べるための主な資料

書名	著者名等	請求記号 資料番号	内容･該当箇所
『下総行徳塩業史』	楫西光速/著 ｱﾁｯｸﾐｭｰｾﾞｱﾑ　1941 年	121/66/シ 011019122	行徳塩業史の基本資料
『日本産業史大系　4』	地方史研究協議会/編 東京大学出版会　1959 年	600/60/ニ 012639779	「行徳の塩業」 安沢秀一/著(p.82～)
『行徳塩浜の変遷 -下総行徳塩の歴史と運命-』	千野原靖方/著 崙書房　1978 年	121/66/キ 011019114	徳川家康関東入部から塩業消滅までの歴史
『東京湾沿岸の塩田製塩について』	小沢利雄/著　1996 年	100/66/ト 013250386	船橋･津田沼町の塩田開発と廃絶について
『資料の広場　No.23　東京湾ー書誌･解題集ー』	千葉県立中央図書館/編 1993 年	000/01/シ 012042594	「東京湾塩業の沿革」 綿貫啓一/著(pp.16～)
『船橋市史　前篇』	船橋市/編　1959 年	110/21/フ 010999274	「旧船橋宿を中心として起こりたる産業」(p.371～)
『わが町のれきし』	船橋西ロータリークラブ 1978 年	110/21/ワ 011000510	実際に塩業に従事した方の体験談を収録
『市川市史　第六巻　史料近世』	市川市史編纂委員会/編 市川市　1972 年	121/21/イ	行徳塩浜関係の古文書収載
明治期から大正期の地形図 (正式２万分の1･2万５千分の1)	大日本帝国陸地測量部	地形図	船橋の塩田を地図で確認することができる